

大沼から全国、そして世界へ～「森林づくり塾」発～

北海道函館水産高等学校 水戸隆太
駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター 福士 忍

1. 課題を取り上げた背景

函館水産高校では、6年前（平成18年）から水の富栄養化による環境汚染が激しい七飯町「大沼」の水質改善活動に取り組んできた。この活動をとおり、水質の改善にはやはり水の源である森林の保全が大事だという観点に至った頃、駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター主催の「森林づくり塾」の開催を知り参加した。植林や下刈、間伐など一連の森林作業を体験する中で、森林保全の大切さや大変さを知ることができた。

この「森林づくり塾」での体験が私たちの新たな活動の場へと広がったことについて紹介すると共に、更なる活動について考察する。

2. 取組みの経過

平成18年度 国定公園「大沼」の水質改善活動開始
平成20年度 「次代の環境を守る若武者育成塾」（アサヒビール主催）に参加
「子どもの水辺フォーラム in 東京」に参加
平成22年度 「森林づくり塾」に生徒4名参加
「森の聞き書き甲子園」に参加
「子どもの水辺フォーラム in 北海道」に参加
平成23年度 「森林づくり塾」生徒5名参加
「子どもの水辺フォーラム in 東京」に参加
「世界子どもの水辺フォーラム in 仏」に参加
平成24年度 「森林づくり塾」に2グループ、5名参加。
「聞き書き甲子園（森部門）」に参加
「子どもの水辺フォーラム in 千葉」に参加

3. 実行結果

平成22年度 「森林づくり塾」の体験を書いた作文が認められて、本校から初めて青森県今別町に住む森の育苗名人「相内長男」氏を訪ねて聞き書きした。

平成23年度 「子どもの水辺 in 東京」に参加した。それが元に翌年3月にフランスで開催される「世界子ども水フォーラム in 仏」の日本代表の一員に選ばれて参加した。フランス大会では「アイヌの人達の森を中心とした自然観」を発表した。

本校の一連の環境活動を耳にした東京文化放送から「高校生エコ・アクション・プロジェクト」応募を勧める誘いがあり、応募した結果、東京で発表する機会を得た。

平成24年度 「子どもの水辺 in 千葉」では、森の再生によって大沼の水質改善を目指す取り組みを発表した。

「聞き書き甲子園」では、山梨県大月市に住む森の整備名人「相馬福平」氏を訪ねて聞き書きした。

4. 考 察

本校の環境活動で「森林づくり塾」に参加したことにより、知見が広がり、「子どもの水辺」や「聞き書き甲子園」に代表される全国規模の大会や日本代表として海外の大会に参加できるようになり、活動の場が広がることとなった。

今後は、現在のような生徒数人による活動から学校全体や地域を抱き込んだ活動に仕立て上げたい。そして、30年前同様、「水浴びができる大沼」を目指し、ラムサール条約に恥じない大沼にしたい。